

バリアフリー塾1年を振り返って

バリアフリー塾に参加して2年目を迎えた。この一年間介護保険でカバーできないところを、われわれの手でなんとかしようと、議論を続けてきた。高齢者が増加している。自分も年をとっていき、健康で楽しい人生を送りたい。だれの思いもいっしょだろう。自分が何らかの手助けを受けたい時、何が必要なのか、何が障害になるのか、自分に引き当てて考えてみたい。すぐにでも出来ることはたくさんある、しかし簡単なようで結論が出ていない。議論ばかりしていても仕方がない、できる事からはじめよう、この心意気で今年度も取り組んでみたい。尊厳死についての講演会を開催して感じたことは、自分が死を迎えた時終末医療について、自分があらかじめ選択できるとのことである。そのためには元気な時にそのあり方を所定の手続きによって決めておくというものだ。誰しも安らかに死期を迎えたいものだ、眠るように安らかに死を迎えたという話をよく聞くが、あなたはどんな病気で死にたいかと聞かれて戸惑った、そんなこと考えても見なかったからだ。私は仏教徒だ、因果の法則によると現在の行いが未来の自分の姿になるという仏の教えがある。人間は死ぬために生きているかもしれない。バリアフリー塾の活動を通して少しでも社会のために貢献できればとの思いで取り組んでいきたいと思っている。

(古川 弘一)

バリアフリー塾

塾に入会して二年が経ちました。

その間、塾生の方々とアイデアを出し合い、「役立ち隊」を立ち上げたり、講演会を通して、広い意味でのバリアフリーを高める活動ができたと思います。講演会は、尊厳死とか福祉の町づくりと、一見むずかしいテーマでしたが、一生を終える過程で、誰もが避けて通れないテーマで興味深い貴重なお話しでした。これからも、広く町民の皆様に住みやすい町づくり、お互い助け合う心の必要性を推進していけたらと思います。

(米谷美代子)

文化ネットワークはりま塾



文化ネットワークはりま

塾長 木村 勝



目的

昨今、「市民社会」「地域社会」においてコミュニティの希薄さ、個人志向の高さや、地縁という絆の変化が言われている。しかし、

数多くの人たちは意識をもって地域活動やボランティアを行っている。

私たちは「文化」を切り口にネットワーク⇒人と人のつながり、コミュニティ、絆を大切にしていきたい。それにより、お互い支え合える心をもった、豊かな人間関係が構築できると考える。

まちづくりは、コミュニティができれば必然的にできる。

今回の塾活動では個人の方で潜在的に活動する意志をお持ちの人がおられることもわかり、多くの参加がありました。住民の絆づくりの意識はもっているけれど一歩が踏み出せない。「トン」と背中を押してもらう機会があるのでは。これからも、そんな機会をつくることができればと思う。

塾活動を行って

上期の活動は4月29日の播磨町福祉健康フェアでの模擬店と、フリーマーケットへの参加ではじまりました。両店とも大繁盛で終えることができました。7月18日には障害児と保護者の方々に阿閉漁港で「親しもう。海!!」と、乗船体験をしていただいた。これは「本荘マリクラブ」の全面的な協力をいただき実現した。参加者はじめ私たちスタッフも楽しいひと時を過ごすことができた。マリクラブの方たちも「来年もやろうや! また、おいでヨ!」と言っただき感謝の気持ちで一杯でした。ありがとうございました

た。今年も是非実現したい。

「生のジャズが聞きたい!」8月29日健康いきいきセンターにおいて、「JAZZ LIVE」を開催しました。約180人の参加者がありました。神戸などで活躍中のジャズシンガー雨宮千晶さんにスタンダードナンバー中心に歌っていただきました。舞台照明などもそろえ本格的ライブになり感動的でした。

おそらく、播磨町では初めての「JAZZ LIVE」ではなかったでしょうか。

当日は、要約筆記ボランティア「ひまわり」の協力を得て、歌詞やコメントをスクリーンに映し出しました。演奏者には少しの戸惑いがあったようですが、好評であったのでは。演奏後のアンケートでは「素晴らしい、感動



阿閉漁港での出発の様子



した」「こんな身近でライブを聴けるなんて」などの意見が多数寄せられました。

下期は早速の事業として、前から考えていた「阪神・淡路大震災10周年記念事業 in 東播磨」(阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨推進会議からの委託)のサテライト播磨町事業をすすめることとした。開催期日は指定されていて平成17年1月23日。この催の内容をどんなものにするか。スタッフともども協議を重ねた。あの「阪神・淡路大震災」から10年。未曾有の大惨事。6433人の人たちが犠牲者になった。一方多くの人たちが地域の、近くの方たちに助けられたと聞かされました。日頃の地域の「絆」の大事さがいわれてきました。また、被災地でのコンサートなどで「癒し」の大切も学びました。今回のコンサートがそんな一助になればと考えました。

そこで、平成16年8月にジャズコンサート開催でお世話になったジャズシンガーでゴスペル奏者でもある雨宮千晶さんに相談しました。その結果、出演を快く引き受けていただきました。また、雨宮さんが日頃指導されている神戸のゴスペルクワイア(合唱隊)「シンギング・スパローズ」(約30名)にも出演していただくことになりました。さらに、音響や照明のプロのスタッフの紹介もいただきました。

前から知合いでありました神戸新聞文化財団・松方ホールの岩田昭治顧問にも相談をもちかけたところ、いろいろ案を出していただきました。その中で「桂南光と河田健のほのぼのジャズバンド」を紹介いただいたのでした。ご存知のように桂南光さんは売れっ子の落語家・タレントさん。無類のジャズ愛好家とか。バンドのサクソ奏者・河田健さん、ベース奏者の村松泰治さんとともに、あの有名な「北野タダオとアロージャズオーケストラ」のレギュラーメンバーだ。凄い方たちに出演していただくことになったのでした。総合司会にラジオ関西のアナウンサーだった三

浦ひろあきさんに、お願いすることに決まりました。以上、素晴らしい方々のご協力が得られ凄い出演者のメンバーがそろったのでした。

ただ、プロのミュージシャンも多く入ったこんな凄いコンサートを私自身体験していませんから、不安の中からの準備となりました。先ずは多くのスタッフの確保です。身の回りの人たちに声掛けからはじめたのでした。人から人への繋がり約30名の人たちがスタッフとして参加していただくことになりました。役割分担に会議を重ねました。

また、雨宮千晶さんの指導のもと、今回のコンサートのため地元ゴスペルクワイアを結成することになり、子供たちを中心に募集していくことに。結果的に約40人のクワイアができました。子供は4人。11月から6回の練習を野添コミュニティーセンターで雨宮千晶さんの指導で行われました。曲は「This Little Light of Mine」「OH Happy Day」の2曲でした。勿論、チケット、ポスター、チラシ、葉書の製作にと全員、口コミなどを通じPRに努めたのでした。前日は椅子並べなどの準備。当日は8時30分全員集合。分刻みのスケジュールで始まりました。照明、音響機材の搬入。出演者の受入れ。と慌ただしくなってきた。13時30分開場、14時開演でしたが、開場1時間前からどんどんと入場者が。ロビーは満員電車のごとく人が溢れたのでした。入場は事故があつてはいけないと数十人づつ分けて入場していただいた。

予想を遥かに超える当日券の82人の人たちを合わせ、414人の入場者となった。ステージは第1部の雨宮千晶さん中心のゴスペル。第2部桂南光さんのメッチャ愉快的トークと河田健さんのジャズライブ。最後は出演者全員と会場が一体となってフィナーレで大盛況のうちにお開きとなった。

【塾生の感想】

コンサートを終えて

播磨夢づくり塾・文化ネットワークはりま主催のゴスペル&ジャズコンサートは満員盛況のうちに幕を下ろすことができました。10月団員募集11月から月2回の練習。本当に歌えるのか心配でしたが雨宮千晶先生の厳しくも心暖まる指導のおかげで何とか歌えるようになりました。子どもたちもがんばりました。一方、チケットはポスター、広報、テレビなど手段をつくしました。

12月、予定数の半分も捌けず半ばあきらめていました。ところが、開催数日前にはどんどん捌けだしました。当日券は底を着き、立見席が出るほどでした。嬉しい悲鳴でしたが申し訳なくもありました。何ヶ月も前からの打ち合わせ、準備、当日受付、警備、舞台関係、お弁当の用意、跡片づけなど裏方さんの皆さんの力があって素晴らしいコンサートになったと思います。スタッフ出演者が全員一致団結、会場が一つになって、よくこんな大きな事が素人の人たちでできたと感動していました。いい経験いい人間関係を持つことができました。今後も皆さんと仲良くいろんなことができたらと希望します。

(E・K)

阪神淡路大震災10周年記念事業に

参加して思ったこと

何か震災10周年記念で小さなことでもお手伝いしたいと思っていました。そして、この催物に参加できました。中央公民館にあんなに沢山の人がジャズ歌手の雨宮千晶さん桂南光さんのほのぼのジャズ倶楽部の歌と演奏を聞きに来ていただいて感動しました。スタッフは皆、素人で初めての手作りの催物だったのに事故もなく沢山の人が喜んでもらえて本当に嬉しかったです。一人では何にもでき

ないけれど皆で力を合わせて、こんな大きな催物ができたことは、私たちのこれからの大きな糧になると思います。

(M・K)

文化ネットワークはりまに参加して

あの1・17が10年の節目を迎え、文化ネットワークはりまの主催で阪神・淡路大震災10周年記念事業コンサートは中央公民館で催された。

プロの照明や音響による舞台は、ホールに入りきらない観客を集め、黒の揃いの衣装で鎮魂を込めて歌うシンガー雨宮千晶さんとクワイアによるゴスペルは観客も共に歌えて楽しめた。元AM神戸アナウンサーの三浦ひろあきさんと落語家、桂南光さんの二人が軽妙に司会をし、河田健さんとほのぼのジャズ倶楽部がジャズの名曲を演奏した。

当日は、阪神大震災のパネル展示や臓器移植の理解への広報も行われた。

演奏者の接待やケイタリングに参加した私は、共通の言葉である音楽を通じて元気もらい、この小さな町、播磨町から元気宣言の発信ができたことを嬉しく感じました。

(M・N)

このホールで

ゴスペル&ジャズコンサートが中央公民館で催されましたが、後日、公民館まつりで舞台に立ったとき、この見慣れたホールに400人もの人が集まり、雨宮千晶さん、桂南光さん、河田健さんと一組だけでも満足するのに、三組もの方々が出演され、会場が一体となって盛り上がった舞台があったのだと感慨を新たにしました。

盛況に、また、無事に終わったことが嬉しかったです。

(Y・I)

ゴスペルコンサートに参加して

播磨町に住んで22年。当初はご近所でも挨拶する程度で、知り合いの方も本当に少なかったです。子どもが幼稚園や学校に上がるようになって知人も増え、役員もする中で行動範囲も少しづつ広がって行きました。けれども同じ年代の方々とは接する機会があっても他の世代の人たちと年齢を越えたお付き合いは殆どありませんでした。が、今思うとそれは当然のことだと思いました。2年前にご近所の奥様にコーラスに誘っていただき、勇気をだして入りました。他町や年齢もかなり越えた方々と知合いになりました。「パー！」と世界が広がった思いをしました。そんな中、今回のゴスペルコンサートにも声をかけていただき、初めての経験の中、同じ目的で地域の人々の心と力を合わせて一つのことを成しとげる喜びを感じさせていただきました。最初は私のほんの小さな行為がどれだけ他人の役に立っているのか思いましたが、雨宮先生の「ありのままの自分で良い！」「前向きに！」「失敗を恐れず笑顔で！」・・・などのご指導のもと、どうにか乗り越えました。今では一緒に練習した人たちと顔見知りになり、声を掛け合う良い機会となりました。家の中だけにいたら知合いも行動範囲も狭いままですが何かのきっかけで、自分のために一歩前に入る勇気が必要だと感じたコンサートでした。

(村上亜紀子)

ゴスペル&ジャズコンサート

驚いたのは、当日売りのチケットを買い求める方の多かったこと。それから途中からこられた人が入場できず帰られたと聞き、大盛況でよかったと思う反面、会場がもう少し大きければと思ったりしています。準備の時よりあまり参加できず、当日も午後よりお手伝いとなりご迷惑をおかけしました。

(三上洋子)

ゴスペルコンサートに参加して

阪神・淡路大震災ゴスペルを歌うコンサートに雨宮千晶さん、桂南光さんと河田健さんのほのぼのジャズ倶楽部の皆さんと舞台に立ちまた、スタッフの一員として参加できたことはよい思い出となりました。

短い間のゴスペルレッスンも日が近づくにつれ先生の気迫溢れる指導に私たちも圧倒された。内心本番は大丈夫だろうかと心配したが回を重ねるにつれ皆が心一つになっていた。

当日は満席の人たちの熱い拍手と興奮で舞台が一つになりフィナーレを迎えた。

今回の塾活動のために集まったスタッフ全員の熱い思いが一つになりチームワークも盛り上がりよい舞台が仕上がっていったことは私にとっても初めての体験で皆様に心から感謝したいと思った。最後に皆様にとお伝えたい。そして、これからも歌の中にあるLittle Shine 輝き続けたいと思います。

(後藤正子)

ゴスペル&ジャズコンサートを終えて

想像していた以上に大盛況に終わり、本当に良かったと思います。始まるまではどの位の人がこられるだろうか？順調にコンサートはすすむだろうか？出演者の方が、有名な方々だったので、失礼なく対応できるだろうか・・・と、不安がいっぱいでした。しかし、いざ、当日始まってみると、そんな心配ごとを考える暇などありませんでした。

それは、思った以上に細々とした仕事が多く、走り回った。慣れないことにアタフタしていたからです。そして、あつという間に気付けばフィナーレでした。スタッフとして最後に舞台下に並んだときは、言葉には表せない感動が湧いてきました。何か一つのものを皆で造り上げてゆく。(私の力は微力にすぎませんが) そのすばらしさを身をもって体験することができました。参加したことで貴重な経験ができ、色々な方と出会えたことが貴重な財産になりました。

(M・T)

ゴスペル&ジャズコンサート反省会議事録

(記録：宮浦節男)

平成17年2月20日(日) 11:30~

出席者： 加田平靖子・谷口美季・神吉恵・村上安紀子・池本よしの・久保松子・後藤正子・米谷美代子・木村悦子・西多美弥子・村上日出男・福原隆泰・小川幸彦・池田了・宮浦節男・木村勝

(参加者16名)

受付関係

- ・プログラム(パンフレットなど)が、400名参加に対して準備絶対数の不足。特に関係者やスタッフに渡す分がなくなった。別にとっておくべきだった。
- ・当日券の取り扱いについてはもう少し柔軟な対応を心がけよう。
- ・大勢の人たちの参加であったが入場に際しては予想ほどの混雑はなかった。比較的整然と受け入れることができた。(ロビーで宮浦さんの機転で人数を制限しながら入場させたから良かったのです。)

チケット関係

- ・当日券と前売券の料金に差をつけた方がよかった。
- ・遠方からの(Tel・Mailなど)予約についても対応できる体制がほしい。
- ・前売券の発売場所が限られていたようだが増やす方向で考えてみてはどうか。
- ・発券数のコントロールは当日券も含め事前に充分検討。
- ・前売券の発売は休日でも扱える所が良い。
- ・町外の方たちには前売券の売場が分かりにくいのでは。
- ・子供料金のチケットを準備した方が良い。
- ・招待券また無料券の存在が知らされていない。
- ・宣伝活動を旨くやっていたればより多くの参

加があったのでは。(今回はこれくらいで充分だと思う)

- ・町外者からの問合せで会場の交通アクセスについて何件かありました。(入場券、チラシに表示したら)

控室関係

- ・ケータリングについて当初不安でした。いざ取り組んでみると案外、問題なく「案ずるより産むがやすし」でした。これも皆さんの気配りのお陰だと。できればゴスペルの参加しながらきたらなと思う。
- ・南光さん、両宮さんたちの控室にも問題なく本当によかった。
- ・ゴスペル2チームの控室の途中移動がありました。(訳あり)大変不便をさせたいと思います。これからはそれぞれに控室がいると思う。

ステージ関係

- ・舞台。照明などステージの経験のない私たちの集まりなのでプロ(舞台装置)の方に具体的な専門スタッフの要請はできないが入場料1000円の価値でいうとあの程度かなアー。
- ・出演者への花束贈呈が何かスムーズに行かなくまずかった。(舞台上での人数が多すぎ、また狭かった問題)
- ・ステージの子供たちが演奏中に誤って落ちないかと心配だった。
- ・結果的には舞台効果は抜群で皆さんと一緒に感動を共有できたのでは。

駐車場関係

- ・当初は車で来る人が多いだろうと覚悟はしていましたが、四苦八苦整理しているうちに結局中盤頃には場所的にも余裕ができました。
- ・初めは忙しく戸惑いもあったが大切な貴重な体験をさせてもらった。

全体的に

- ・手持ち資金がないため資金繰りが難しく支払いの滞っているところもある。最終的には余裕ができる予定です。
- ・一流の奏者が出るので吹奏楽関連(高校、中学など)に鑑賞の招待の打診をしたが反応がなかった。残念なことだった。
- ・後日、知らない人から声を掛けられ「好評だったネ」と言われた時、「やってよかった!」
- ・初めてのことで先が読めずイメージが湧いてこない何も手につかず、お陰で演奏は全部見ることができました。(?)
- ・主催者側としてお手伝いしましたが、緊張もせず気持ちの余裕を持って取り組めた。
- ・400人と言う大イベントにスタッフとして参加させていただき感謝しています。

その他として

- ・今後の「はりまスパローズ」活動は残念ながら継続できないようだ。
- この大きなイベントを試行錯誤しながらもスタッフの自発的な活躍でやり遂げた。この絆を大切にしながら、地道にまちづくりを進めたい。

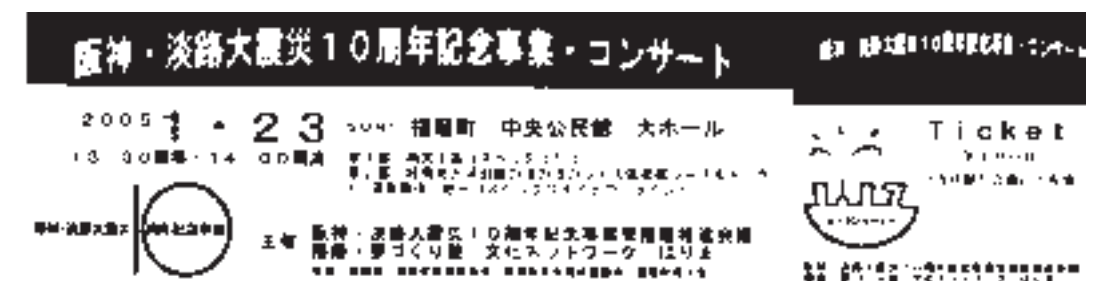
ゴスペルクワイア はりまスパローズ



野添コミセンでの練習風景



リハーサル風景(中央公民館)





11月23日(日) 阪神・淡路大震災10周年記念事業「東播磨
 福屋夢づくり塾」文化ネットワークはりま
 主催 福屋町・福屋町公民委員会・福屋町社会福祉協議会・福屋町農工
 会・福屋町商工組合・福屋町青年会・福屋町婦人会・福屋町老人会
 協賛 福屋町立福屋小学校・福屋町立福屋中学校・福屋町立福屋高等学校

2005 1・23 (SUN)

福屋町 中央公民館 大ホール 開演 13:30 開演 14:00



第1部 福音子島「ゴスペル」うた
 大阪府立音楽院音楽科卒業生 福音子島 福音子島
 福音子島 福音子島 福音子島 福音子島
 福音子島 福音子島 福音子島 福音子島



第2部 福音子島「ゴスペル」うた
 大阪府立音楽院音楽科卒業生 福音子島 福音子島
 福音子島 福音子島 福音子島 福音子島
 福音子島 福音子島 福音子島 福音子島

主催 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま
 後援 福屋町・福屋町公民委員会・福屋町社会福祉協議会・福屋町農工
 会・福屋町商工組合・福屋町青年会・福屋町婦人会・福屋町老人会

福音子島「ゴスペル」うた
 大阪府立音楽院音楽科卒業生 福音子島 福音子島
 福音子島 福音子島 福音子島 福音子島
 福音子島 福音子島 福音子島 福音子島

2005年1月23日(日) 13:30開演

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま



文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

2005年1月24日(月) 19:00開演

助け合いの心 広げよう



福屋町でコンサート
 震災の教訓ゴスペルで
 仮設 居住者ら再会喜ぶ

福屋町でコンサート
 震災の教訓ゴスペルで
 仮設 居住者ら再会喜ぶ

福屋町でコンサート
 震災の教訓ゴスペルで
 仮設 居住者ら再会喜ぶ

福音子島「ゴスペル」うた
 大阪府立音楽院音楽科卒業生 福音子島 福音子島
 福音子島 福音子島 福音子島 福音子島
 福音子島 福音子島 福音子島 福音子島

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 ゴスペル&ジャズコンサート
 2005 1.23 (Sun)
 福屋町中央公民館 大ホール
 福音子島「ゴスペル」うた
 大阪府立音楽院音楽科卒業生 福音子島 福音子島
 福音子島 福音子島 福音子島 福音子島
 福音子島 福音子島 福音子島 福音子島

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

文化ネットワークはりま
 阪神・淡路大震災10周年記念事業東播磨性道会
 福屋夢づくり塾 文化ネットワークはりま

阪神・淡路大震災希望の灯り 神戸・三宮東遊園地での分灯

竹炭の力

～リパークリーン エコ炭銀行 加西研修所での研修に参加して～

私の良く行くガソリンスタンドに、竹炭や竹炭入りの石鹸が置いてあります。何気なく効能書きを読んでいました。石鹸はアレルギーに良く効く、竹炭は風呂にいれると肌がつやつやします、お湯を沸かすとき入れるお湯がおいしくなると書かれて有りました。でも値段を見ると案外高いものだなあと思う程度の認識でした。

それが、ある日、塾長より、竹炭を作りに行きませんかと誘いを受けました。私ともう1人と3人で、私の学校の先輩が中心になって焼いている炭焼き場に勉強に行きました。加西市の奥で竹林を切り開いた、周りは果樹園という静かなところでした。

私達の他にも西脇市の人や、播磨農業高校の生徒も実習に来ておりました。竹を切り出す作業、竹を一定の長さに切る作業、竹を4つ割りにする作業、竹の中の節を落として陰干しにする作業、そして、竹を釜に入れる作業、火をつけて温度調整の説明を受けて、竹より出るタールとエキス(竹酢)を抜く作業、もう少しで竹炭になるという時間までいて引き上げました。後はあくる日、冷えて(約50℃)から取り出すそうです。

作業の合間に、携わっているボランティアの方に、色々の事を教えていただきました。使用方法も、スケールの大きな話。川や池に沈めて水を浄化させること、水田に竹炭の粉を混ぜて、無農薬でお米を作っている農家があるそうです。しかし、その主人はそのお米は他人には食べさせないそうです。自分と家族だけで食べている話とか・・・

播磨農高の若い生徒と一緒に作業も大変楽しいものでした。又、先生が、水田に合鴨を放して、無農薬で作ったお米で握ったおにぎりを、わざわざ持ってきてくださり、おいし

くご馳走になりました。今まで、竹炭については半信半疑の認識でしたが、自然の持つ力を再認識した次第です。

その後の話の中で、先輩に民生委員へ竹炭を分けて頂けるよう話をする予定です。頂けるのであれば木曜会で、バザーに出して「ゆうあい園」の資金の足しにしたいのですが。人に優しいものを提供して少しでもお金になれば、一石二鳥ではないかと思われそうです。

9月10日の、中央公民館での映画会の際に、「ゆうあい園」の子供達が作ったジャガイモ、と民生委員の木曜会が心を込めて縫ったパッチワーク、それに竹炭が加われば、映画会と同時にやるバザーも心強い。その日を楽しみに、また、皆様のご協力をお願いいたします。 三上年一



竹の節を取る



乾燥した竹の投入



釜へ火入れ



竹酢液の採取

「地域通貨」ってなあに～

「地域通貨」は、互いの支えあい、助け合いの貸し借りを何らかの「単位」で留めておく。それによって、地域の人々のつながり、絆を強めて行く。そうです、昔の日頃の生活は 単位は別としてそれが、日本では当たり前だったと思います。

地域通貨は日本経済が減速した90年代後半、人材や知恵、自然などの潜在的資源を見つけ出すツールとしてまた、まちづくりのツールとして注目され出したようです。

新たな地域の人々のつながり

普段、地域で できること、してほしいことを交換流通することで、助け合いのネットワークができる。住民同士の絆が生まれる。

自己能力の発見

潜在的にもっている能力の発見、また、地域として潜在資源の発掘などができる。例えば自分ではなんでもない能力が相手にとって大変な助けになるとか、元保育士さんが忙しい若夫婦の子どもさんの面倒をみるなどのことができるとか。

余剰能力の活用

地域で資格や活用されていない能力をもった人を必要な人にマッチングすることができる

地域通貨の種類

通帳記入型：通帳やカードに残高を記入していく。

紙幣発行型：ニューヨーク・イサカでの有名なようで、オリジナルの紙幣を発行する方法。イサカについては後述、報告します。

小切手型：紙幣発行型に似ていて、裏面に持ち主が次々サインをしてゆくもの。

タイムダラー型：例えば30分仕事に対しておはじきを一枚渡すとかするようです。

地域通貨 イサカ について

3月27日、丹波市でのNPO「丹波まちづくりプロジェクト」設立記念での講演で兵庫県県民政策部地域政策課の畑正夫課長による「地域通貨実践都市—イサカからのビデオ報告」がありました。その中での話を要約したいと思います。

イサカはアメリカ・ニューヨーク州北西部にあり、約3万人余りの町(播磨町とほぼ同じ)でコーネル大学があることで有名。91年、ポール・グローバーと言う人が30名のほどの仲間でお札を発行することで始める。今は800人ほどになっている。

単位は「イサカアワー」で1アワーが10ドルに相当するそうです。

「アワー」はお金としての性質が強い。地域のみで循環するお金。メンバーはお金としての認識で利用している。銀行でも取り扱われている。政府も認めている。約10数年かけて大きくなった。

最初はメンバー中心にワイワイガヤガヤと食べ物を持ち寄りながら始めた。

今は、運営委員会はメンバーからの選挙で選出委員長は役員員の互選で決める。

約1500のサービスメニューがある。ファーマーズ、協同組合、ベーカリーなどをはじめ通貨している。



イサカアワーの紙幣

NPO丹波まちづくりプロジェクト設立記念パーティーに参加して

“エコマネー”はテレビでチラッと目にしたこの言葉を聞いていたので、実際に「未杜」と言う地域通貨を使っている丹波市への研修に参加しました。NPOと地域通貨についての講演とアメリカ・イサカと言う地域通貨実践都市視察のビデオ報告でした。その後の交流会では似顔絵を描いてもらうコーナーがあり、あまりによく似た似顔絵に驚いたり、本当に楽しい交流ができました。地域通貨の実践にはいろいろ問題があると思いますが、それによって地域の活性化、助け合いの心で無理しないで自分のできる事をする。そして、出来ないことは人に地域通貨を使ってしてもらう。なんて素敵なことでしょう。私のちいさい時はそんな事が極当たり前のような暮らしぶりでした。簡単なことなのに、なかなかできない。そんな世の中になってしまっているように思います。何かをしようとしても“つい”後ずさりする自分がいます。地域通貨が実践された時、自分も変わるんじゃないかなあと確信しています。早い時期の実施を期待しています。(中島芳公)

地域通貨「未杜」の研修に参加して

「地域通貨とはどんなものか」は少し理解できたのではないかと思う。

私自身も、賛成で私自身どんな事ができるか考えてみました。しかし、「未杜」の成立がわかりません。一番最初どうやって「未杜」を手に入れるのか。どの位、丹波で広がっているのか。また、当日の参加者の少ない事にも気になりました。

(注：当日は講演とパーティーでもあり。時間的に詳しい話が聞けませんでした。4月15日に「未杜」の理事長さんたちに播磨町に来ていただき、「未杜」の説明と懇談会を開催します。いろいろと質問ができる

予定になっています。)

何事も一つのことを立ち上げ、根付くまでは長い時間がかかると思います。私自身、今は体力も、時間も、少しの気力もある間に、何か出きる事があれば、何でもやってみたいと思っています。

(森井美千代)

地域通貨「未杜」の研修に参加して

先日、NPO丹波まちづくりプロジェクトの設立記念パーティーに参加させて頂きました。

「地域通貨」は時々耳にすることはありましたが、情報も少なく、関心もさほどなく過ごしてまいりました。

今回の会場での講演や、ビデオによる説明など、とても勉強になりました。ありがとうございました。

(丸尾愛子)



NPO「丹波まちづくりプロジェクト」との交流

NPO丹波まちづくりプロジェクト設立記念パーティーに参加して

当日は、天候にも恵まれ、期待と夢を膨らませながら11名の塾生ともども現地に到着。会場設営の準備中にも係わらず厚かましくも奥へ進む。知りたいことが山ほどあり、手当たり次第、居合わせた現地のスタッフに質問しました。

どなたと話しても明るい表情で言葉はつきりと自信に満ち溢れています。そのパワーの源は何なのか、不可解ですらあった。

会場は、定刻になり赤井理事長さんの挨拶などがあり、引き続き、神戸大学小西教授による「地域通貨と地域再生について」と記念講演がありました。聞くこと何もかもが目新しく思えました。講演の前段でNPOについてのお話がありNPOは地域住民が主体となり「非営利活動法人」と言う言葉に惑わせることなく、実際はどんどんと営利を求めなければならない、ただその利益を皆で分配してはいけなくて、その利益を次の事業に注ぎ込むこと。いま多くのNPOが出来ているが寄付や委託費に頼っているところは解散してしまっているとのことでした。利益を最大限上げ、組織を充実させ経営活動を活発にし、スタッフを増強させることにより、さらなる地域への貢献が可能になると教えられた。(会場の交流会ではバザーや時計修理がありましたが、似顔絵コーナーもあり、すごく人気がありました。私も、一枚描いてもらいました。本当によく似ていると皆に冷やかされました。)

私たちが日頃は、近所の人たちとは、いろいろな形で関わりをもっています。(留守中の植木の水やり、配達物の預かり、ちょっとした自転車や電気器具の修理、蛍光灯などの交換など)

親切と感謝が、やり取りされていますが、もし、地域通貨が確立されていれば感謝も通

貨で表わされ、親切もこれまた、通貨で表現できる。

そして、喜びは笑顔で返すことができるのです。そこに自然とコミュニケーションは深まります。私たちも地域通貨の確立を目指して、他所の真似じゃなくこの地域にふさわしい独創性豊かな地域通貨を皆のネットワークで定着させたいものです。

(宮浦節男)



丹波まちづくりプロジェクトでの講演会場で (05・3・27)

地域通貨 「未杜」とは

主催団体：NPO「丹波まちづくりプロジェクト」

展開の地域：丹波市及び周辺地域

地域通貨名：「未杜」

未杜は「未来の杜」を意味する。

組織：事務局の運営スタッフは5名。

目的と対象：対象となるコミュニティーは丹波市で、この地域の旧住民と新住民がその区別なく、すべてが信頼と助け合いを広げ昔の地縁、血縁を超えて古い慣習などの縛られない人と人の新しい関係のネットワークをつくること。

発足の経緯：理事長の赤井さんが社会教育関係の仕事の中から、農村地域を新しく変えていく必要があると有志を募る。新しいコミュニティーを創造すべく有効な手段として地域通貨が最適であると考えた。人権、環境、共生をモットーに幅広く「未杜」の流通を呼びかけています。

実施時期：2001年7月 発足

未杜交換方法：

- ・事務局に「提供できるサービス」「して欲しいサービス」を登録、会費は1000円
- ・事務局から500未杜とサービスリストを受け取る。
- ・必要なときにサービスリストで、して欲しいサービスを提供できるメンバーを探して連絡し、依頼する。質問などがあれば事務局スタッフに尋ねる。
- ・依頼したサービスを受け、終了相手に未杜を渡す。「未杜づくり」に、日時、内容、価格を記録する。
- ・未杜は通帳式であり、提供がなくても残高がマイナスでも利用可能。

その他：通常の個人対個人の使用以外に、エコ石鹸を作っている団体も加入している。説明会と会員交流の場として、毎月1回、30日を「未杜の日」として事務局を解放している。

仕組みは託児、お年寄りの移送や話相手、時計の修理……。会員は「できること」と「して欲しいこと」を登録。何かをすればプラス、してもらえばマイナスをカードに記入する。年1回、全員が集まり決済。赤字が膨らめば農作物などを買ってもらう。黒字や赤字があってもそこでリセットする。

利益追求ではなく、信頼を軸にモノやサービスの自発的な交換。そこから自立した個人のネットワークが広がる。

地域通貨だと、潜在能力が存分に引き出せ、相手に喜んでもらえる。「円」だと多い少ないで気を使って、ギスギスして楽しくないのでは。

以上「未杜」ホームページ、神戸新聞及び、事務局による。

わくわく人権塾 (ハーモニー)

人はみんな自由・みんな平等です。そして、一人ひとりが共に生きる仲間です。

人権が尊重されるすてきなまちをみんなでつくりたい。

